



**スノーシューで  
山本山山頂へ**

冬、山本山に登るときは、5段目のおぢゃ～るから出発し、6段目の牧草地の雪原を経て、7段目の山頂の雪原まで上がることとなります。段丘と段丘の間の段丘崖は急な登りとなりますが、それぞれの段丘面に広がる雪原を楽しみながら、山頂を目指してみましよう。



7段目 (山頂・そば畑)

6段目 (牧草地・ひまわり畑)

5段目 (おぢゃ～る・第2調整池)

4段目

3段目 (第1調整池)

2段目 (国道117)

1段目 (元中子)

山本山は、大地の運動と気候の変動と信濃川が造りだした河岸段丘で成り立っており、階段状に積み重なった台地で構成されています。そのため、かつては谷内山台(やちさんだい)という名で呼ばれていました。

それぞれの台地の平らな面は、かつての川原で段丘面(段丘面)と呼ばれています。台地と台地の間の崖は、信濃川が削ってできたもので段丘崖(だんきゅうがい)と呼ばれています。

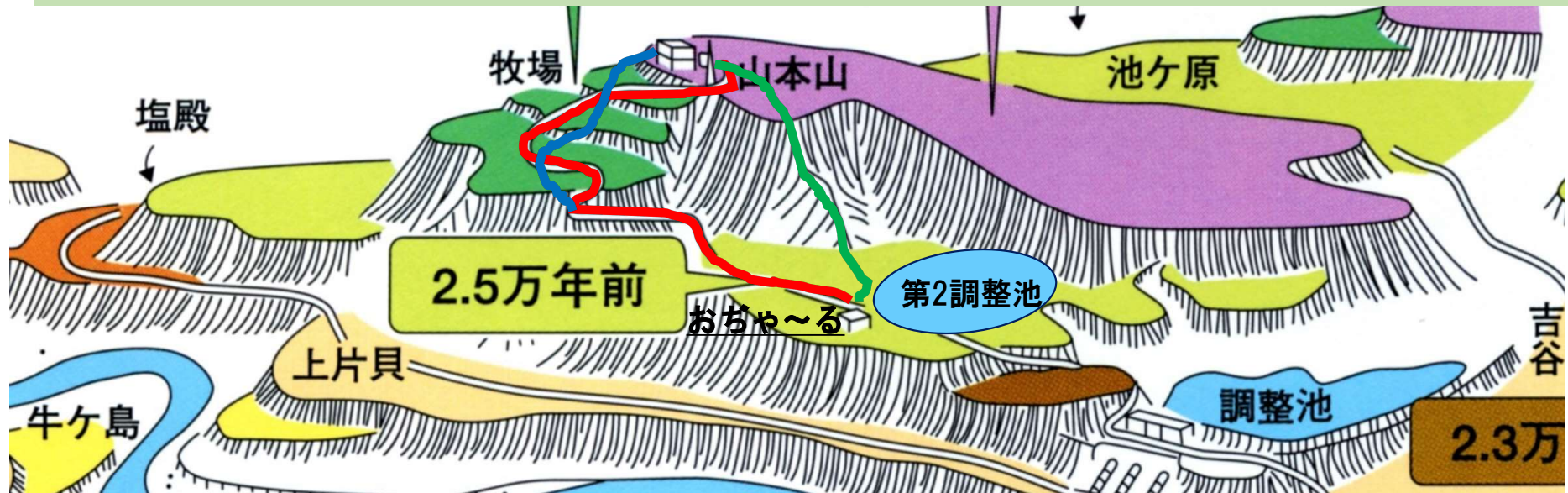
段丘を川原に近いほうから1段目、2段目と数えていくと、7段目まで数えることができます。川原に近い段丘が一番新しく、上の段丘ほど古い時代に造られた段丘となります。



車道を登るコース。多くの方が歩いた後であれば、長靴で登っていくことは可能。

車道やそのショートカットの林間コースを組み合わせたり、雪原をフリーで歩いたりするコース。スノーシューやかんじきがあれば、雪原や林間の自由度が増す。

冬限定のルート。尾根を登って山頂を直接目指す。コースがあるわけではないので、地形を見ながら歩く。スノーシュー、かんじきが必須。



一番上の山頂の段丘は約5万年前に、次の牧草地の段丘は3~4万年前に、おちゃ〜るの段丘はだいたい2.5万年前に形づくられたといわれています。

それでは、5段目のおちゃ〜るの段丘から7段目の山頂の段丘までのコースを紹介します。

# 準備をして、おぢゃ～るを出発



おぢゃ～るで、  
スノーシューを借  
りすることもできま  
す(有料)。



ストックもマットになっています。





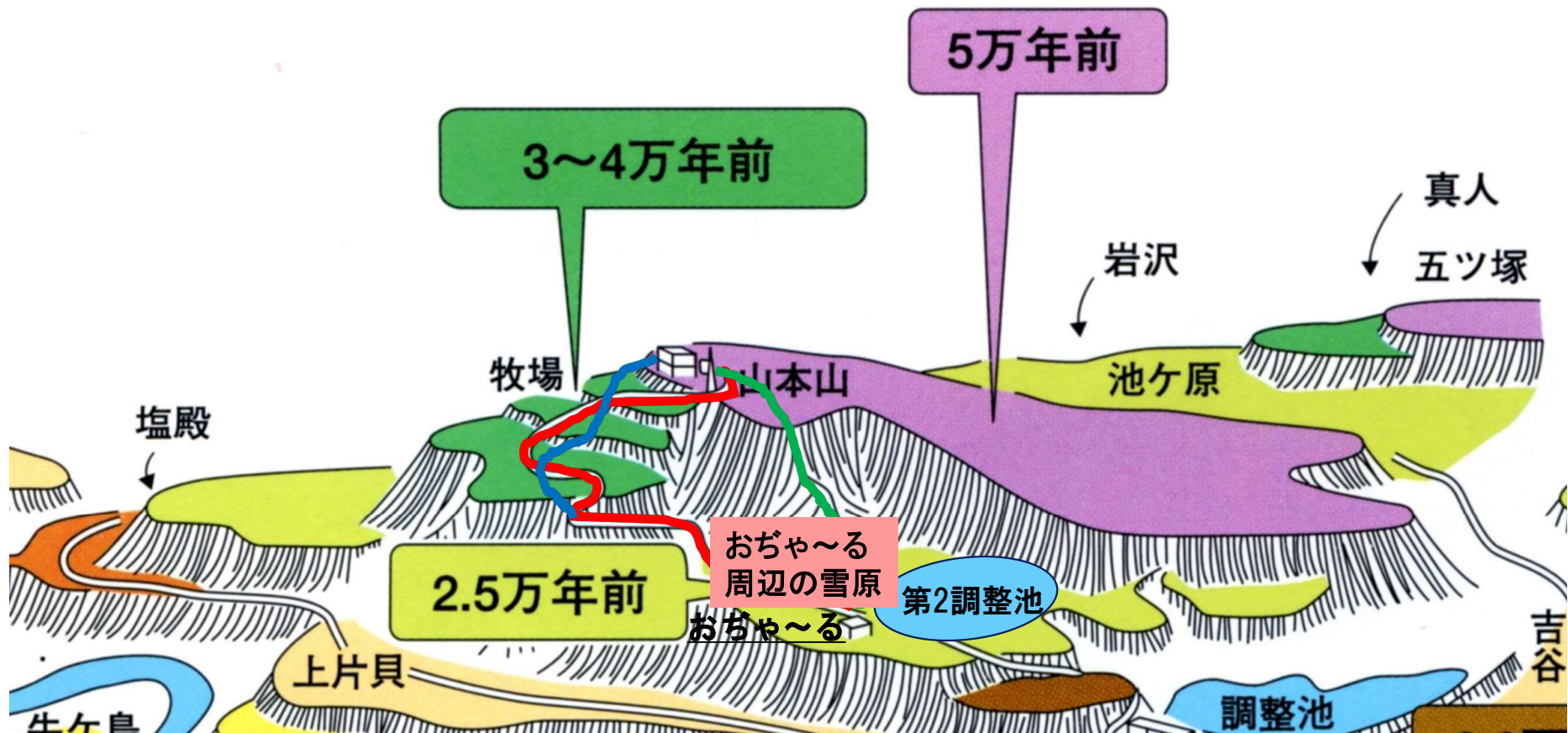


最初は、除雪された道路を歩きます。

除雪最終地点を過ぎると、雪上歩行となります。スノーシュー等はここで装着し、登り始めとなるカーブを目指します。

時間があれば、登り始める前におぢゃ～る周辺の雪原を楽しんでから行きましょう。






おぢゃ〜る周辺の  
雪原を楽しもう





カモシカ

# 動物の足跡



キツネ



リス



ウサギとキツネ  
が合流





この木の下で  
タヌキが大騒ぎ

たくさんの足跡が一本の木の下に。  
これは、タヌキの足跡です。

タヌキのお目当ては、  
落ちた柿の実でした。





枝先がスパッと



枝先や樹皮はウサギに食べられたの  
ですね。

動物のフィールドサインを見つけると、  
いろいろなことが分かってきます。

この木の下を見ると、落とし物が。



樹皮がガリガリッと



落とし主は、ウサギです。

# いろいろな冬芽・葉痕



タラノキ



クリ

小人の顔

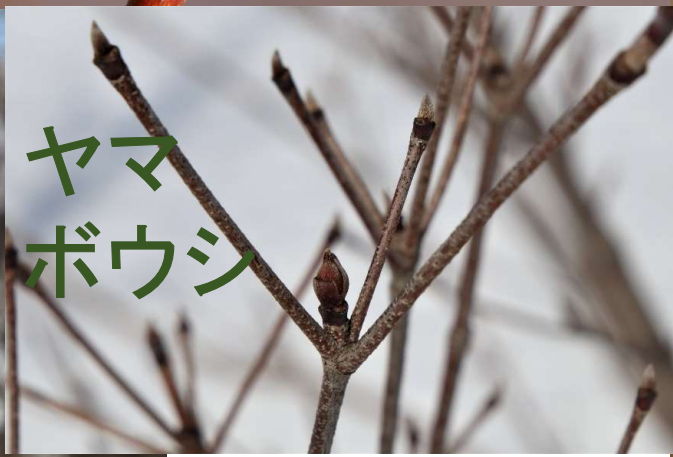


オニグルミ

羊の顔



ハリ  
ギリ



ヤマ  
ボウシ



コウモリ

ニセアカシア



# 冬芽の生長

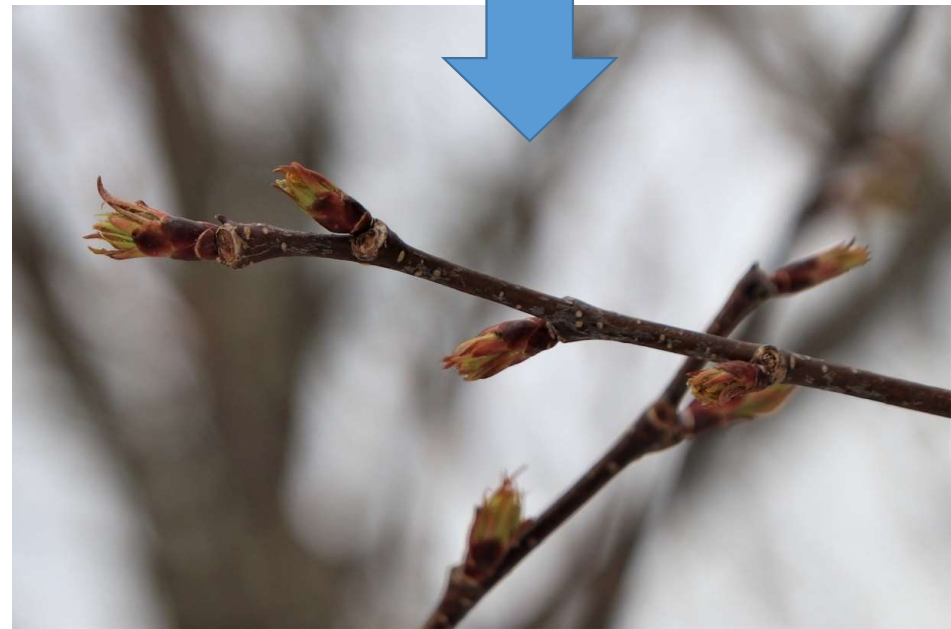
2月

マルバマンサク

ウワミズザクラ



3月になると





調整池の向こうには、西山山系の山々



↓西山山系の山々↓

林をぬけると、  
第2調整池に出ます



夕方には、このような  
光景を見ることもできます

調整池では、水鳥の観察もできます



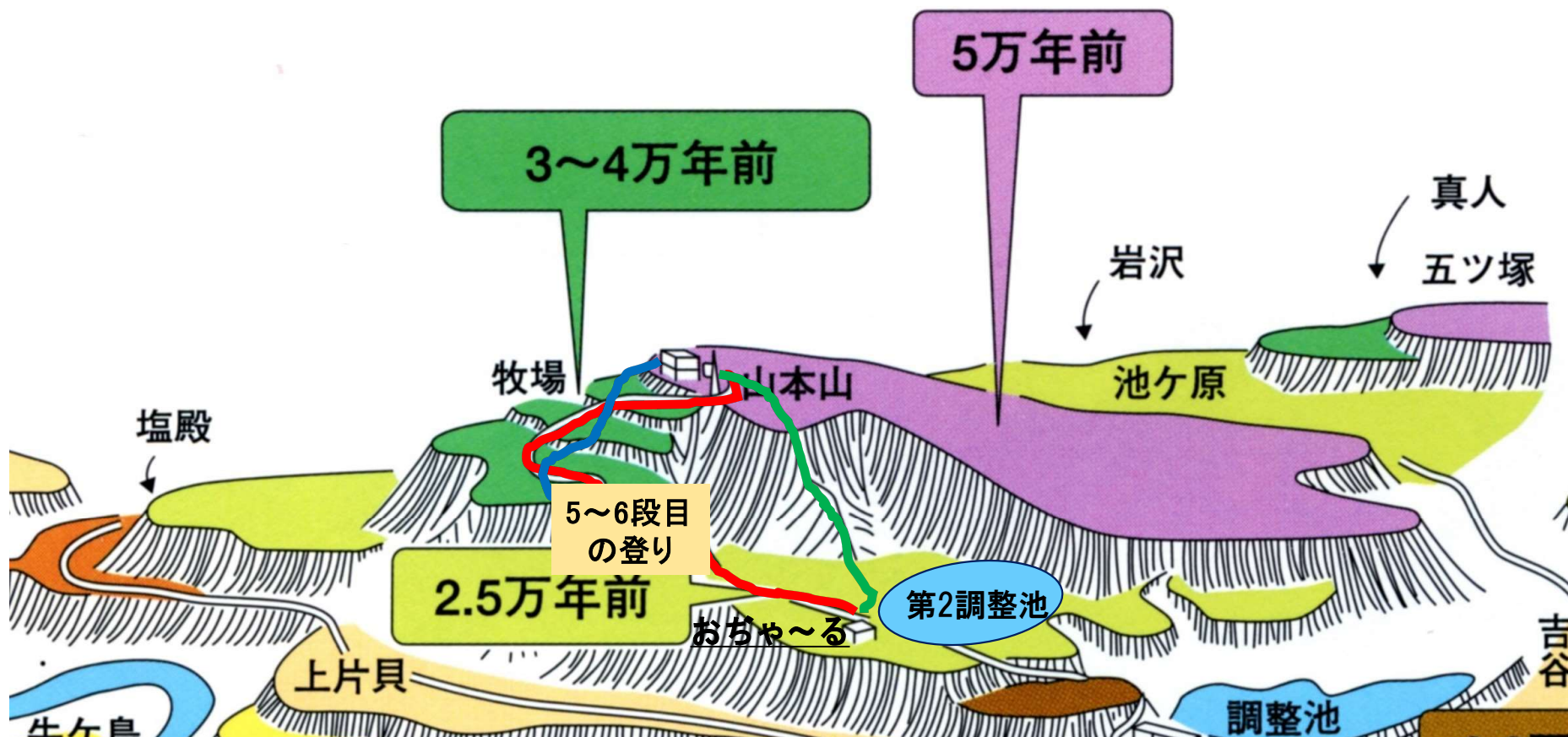


ここで5段目の雪原は  
終わりです

調整池を背にして



6段目の雪原を  
目指します



5段目～6段目の登り

林や眺望を楽しもう



# 車道を登る:カーブと長い直線路を楽しみながら登ります

## 2番目の直線路

林間コースを通ると、ここは通りません。振り返ると、自分の踏み跡や小千谷市街が。

## 6段目入口の直線路

ここを登りきると、牧草地です。牧草地の雪原まであと一息です。



スノーシュー履いています

## カーブミラー

注意  
脂  
JA

カーブごとにあります。このような使い方もできます。

## 最初の直線路

ほとんどの人がここを通るので、踏み跡がしっかりしています。

## 眺めの良いカーブ

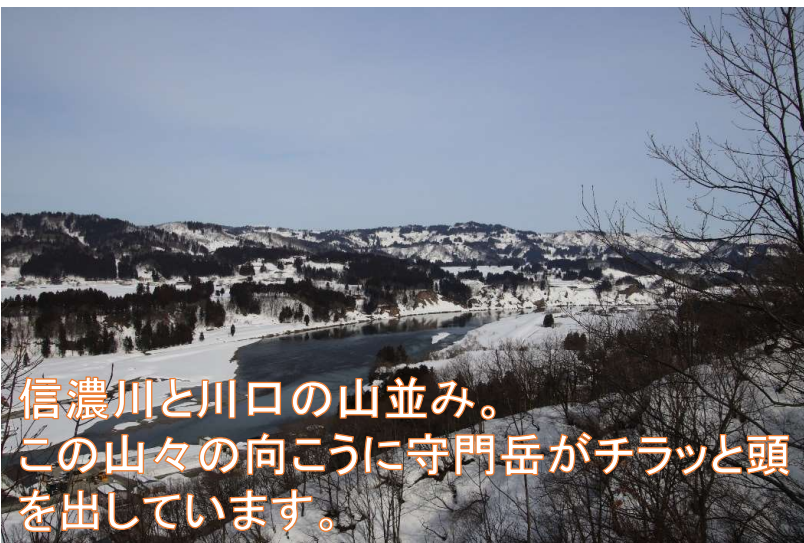
川口・魚沼方面の眺望を楽しむことができます。振り返ると小千谷の市街も。



# 眺望を楽しむ：川口・魚沼の山々



浅草岳も見えてきました。



信濃川と川口の山並み。  
この山々の向こうに守門岳がチラッと頭を出しています。



さらに高度を  
上げると



守門岳がはっきりと見えてきました。  
毛猛山塊も見えています。



高度を上げていくと、隠れ  
ていた山が現れてきます。





# 眺望を楽しむ：小千谷の街並み



夜景もちょっぴり楽しめます

車道の開けたところからは、街並みの眺望を楽しむことができます。



小千谷の東西の市街地が見渡せます



東小千谷の街並み  
天気が良いと弥彦山が見えます



東小千谷の山々  
藕生城山や山寺山、木津八海山



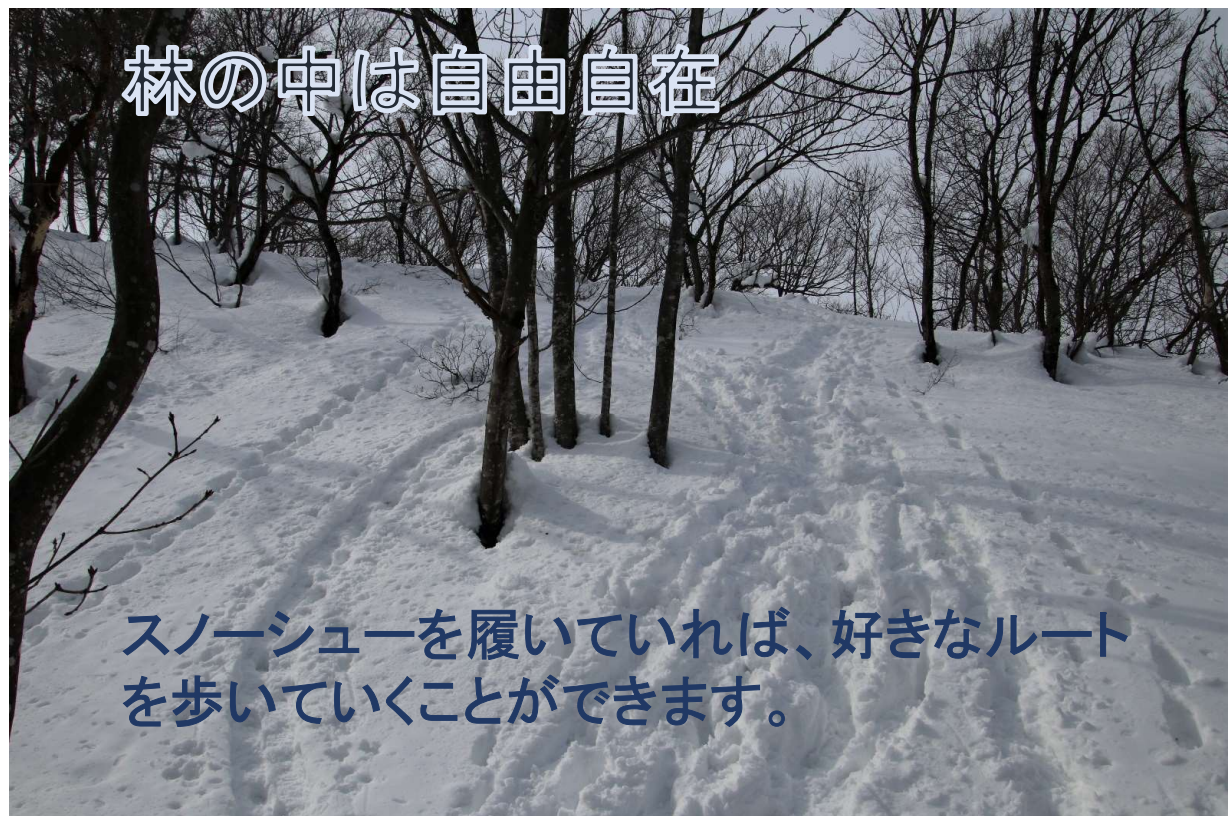
# 林を登る:コースをショートカットしながら登り、 動植物との出会いも楽しみます。



次のカーブミラーを目標にして登って  
いきます。



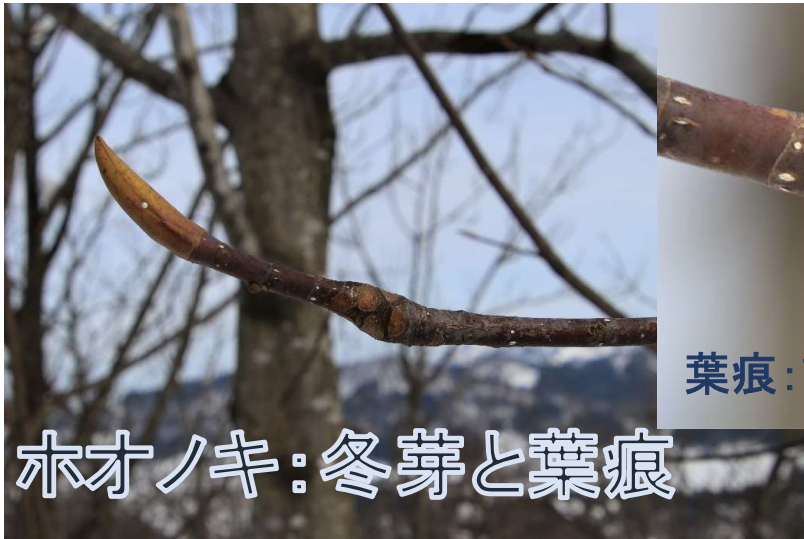
カーブミラーの脇から  
林に入っていきます。



スノーシューを履いていれば、好きなルート  
を歩いていくことができます。



# 林を登る：動植物との出会いを楽しむ。





# 林を登る：動植物との出会いを楽しむ。

見上げてみると、小鳥の姿が

新鮮な足跡は、爪跡もはっきり



ツツピー、

ヤマガラ



ツツピー

シジュウカラ

足元を見ると、  
動物の足跡が



ノウサギ



カモシカ



2つの蹄の跡がはっきり





6段目の雪原を楽しもう



# 6段目(牧場面)を歩く



林の中を歩くこともできます

牧草地在広がる6段目は、ゆるい傾斜の雪原が広がります



越後三山

巻機山

雪原越しの眺望も楽しめます



山頂へも自由自在

スノーシューで自由自在に歩こう



牧場雪原は、好きなコースで



# 林の中を歩く: 動植物との出会いを楽しむ





# 雪原を歩く:眺望を楽しむ



越後三山



雪原歩きは自由自在。自分たちだけのトレースも。

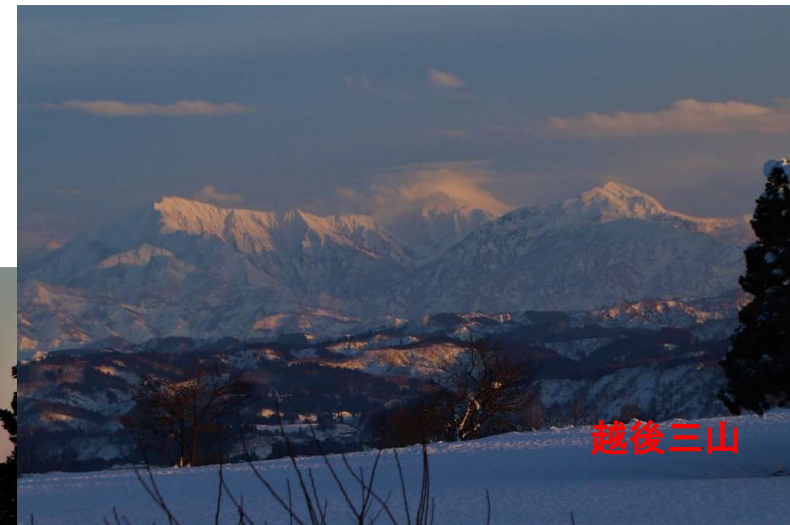
## 雪原越しの山々の眺望



巻機山



守門岳



越後三山

## 夕刻の眺望



# 越後三山

荒沢岳 越後駒ヶ岳 中ノ岳 八海山



車道に沿って山頂に



林間を自由自在に山頂へ

雪原や眺望を楽しんだら、山頂へ。





# 山頂を楽しもう



# 7段目(山頂)の雪原を楽しむ



雪原を下ると、その先には、刈羽三山(黒姫山・米山・八石山)がそびえています。



雪原には、いろいろな動物の足跡も



ウサギ

山頂台地は、かつてのスキー場。ゆるい傾斜の雪原が広がります



かつてのゲレンデを登って、山頂に引き返します。



山頂に戻って、展望台に上がってみましょう。



# 展望を楽しむ：東側①

南東には、素晴らしい光景が広がります。

信濃川の向こうに、越後三山～守門岳などの山々や会津の山々を見渡すことができます。



一番の見どころ

信濃川の大きな蛇行と越後三山



# 展望を楽しむ：東側②



東～北東に目を向けると、川口・小千谷・山古志の山なみの向こうに様々な山を見ることができます。





# 展望を楽しむ：北側

北側には、たくさんの電波塔があります。その向こうに小千谷の街並みや小千谷・東山の山並みを見ることができます。

信濃川の流れの向こうに、弥彦山や角田山を望むこともできます。





# 展望を楽しむ：西側①

西側には、小千谷西山の山並みの向こうに、刈羽三山や頸城三山を望むことができます。

時水城山、丸山などの小千谷西山と、すぐその後ろの、八石山や(刈羽)黒姫山、米山からなる刈羽三山も間近に望むことができます。





# 展望を楽しむ：西側②

南西に目を向けると、遠くに頸城三山や信越国境の数々の名山を望むことができます。

はっきりと見る事ができる日が少ないので、見ることができたら、ラッキーです。



妙高山  
(100名山)



頸城三山

高妻山 妙高山 火打山  
黒姫山 乙妻山 焼山



黒姫山  
(200名山)

高妻山  
(100名山)

乙妻山



火打山  
(100名山)

(新潟)焼山  
(300名山)



# 展望を楽しむ：南側①

南側では、小千谷南部の山並みの向こうに、上州と越後・信州と越後の国境の山々、奥志賀の山々などを望むことができます。

南西方向を見下ろすと、二段下の段丘(池ヶ原面)が広がっています。「はさ木」の立つ雪原は、CM等の撮影地にもなっています。



池ヶ原雪原の向こうに、十日町の街並み、その後ろに苗場山や奥志賀の山々が連なっています。





# 展望を楽しむ：南側②

巻機山は、高場山の後ろに、大きくそびえています。

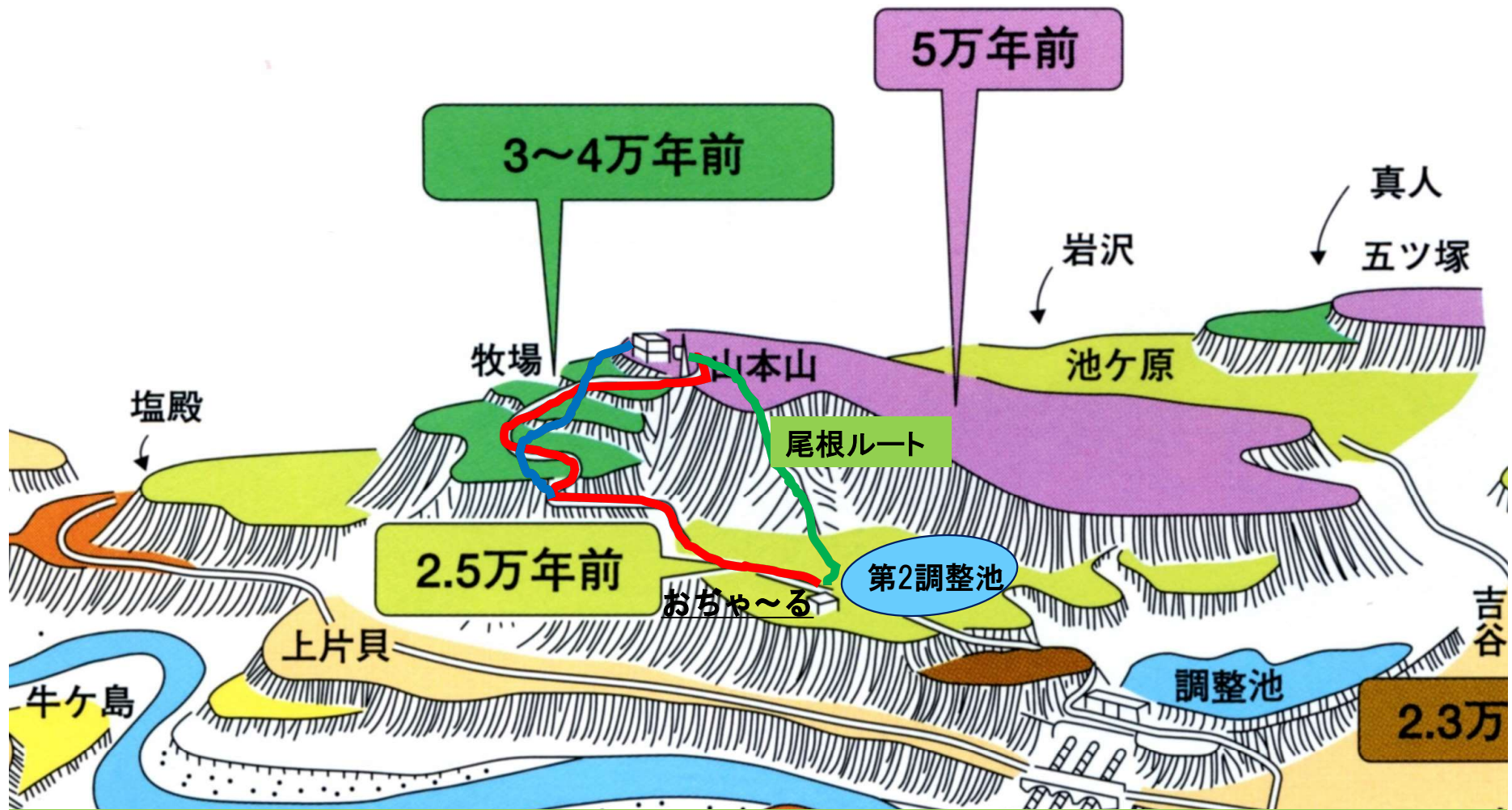


南東～南に目を向けると、丹後山～三国峠にかけて、上野国と越後国の国境の稜線(越後山脈)が連なっています。

その中で目を引くのが、巻機山(100名山)です。巻機山の南には、朝日岳(300名山)、谷川岳(100名山)、仙ノ倉山(200名山)などの山々が連なり、三国峠まで、上越国境稜線が続いています。







# 尾根ルートを楽しもう

木津大原



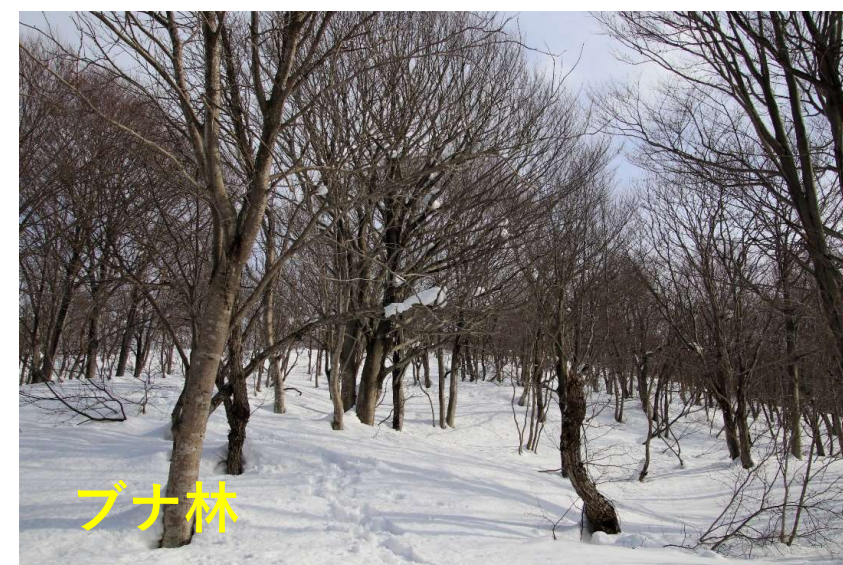
# 尾根ルートを楽しむ：林間を歩きます

尾根ルートはいくつかありますが、今回は山頂からの尾根を通ります。

山頂駐車場から右カーブする車道と別れ、直進して林に入ります。



山頂の近くはコナラ林、調整池の近くはブナ林の中を歩きます。





# 尾根ルートを楽しむ：林を見つめよう①

この林を代表する樹は、コナラとブナです。

山本山では、ブナは、いくつかの尾根でしか見ることができません。

どちらの樹の冬芽も、鱗でしっかりと守られています。



コナラ



コナラ  
冬芽



ブナ



コナラこぶ病

コナラの、たくさんのこぶは、コナラこぶ病のためです。



ブナ  
冬芽



# 尾根ルートを楽しむ：林を見つめよう②

それぞれの樹木の冬芽を見てみましょう。

ブナやコナラ以外にも、  
たくさんの樹木が。





# 尾根ルートを楽しむ：冬芽の見立てを楽しもう

オオカメノキ



この林に多い  
オオカメノキの  
冬芽を、いろい  
ろなものに見立  
ててみましょう。





# 尾根ルートを楽しむ：生き物のサインを見つけよう

樹だけではなく、いろいろな生き物のフィールドサインも、見つけてみましょう。



スカジダワラ  
(クスサンの繭)

木の枝についている繭

動物の足跡



カモシカ





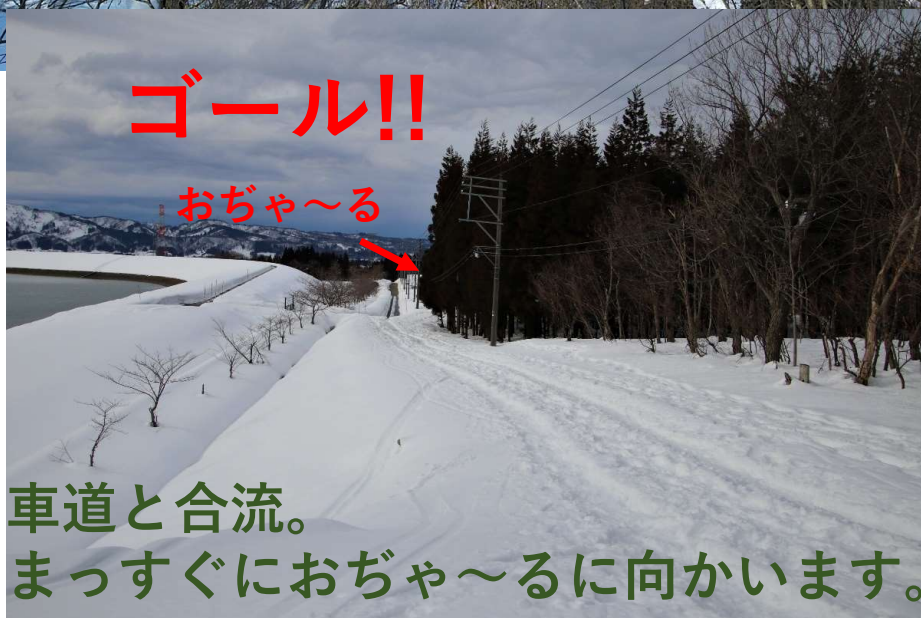
# 尾根ルートからおぢゃ～るへ



第2調整池と小千谷の街並み



調整池に向かって降りていきます。



ゴール!!

おぢゃ～る

車道と合流。  
まっすぐにおぢゃ～るに向かいます。



調整池の脇の道と合流します。